

松屋筆記

卷廿三

15
1397
7



56

門	イ	5
號	1397	
卷	7	

昭和三十四年二月一日
高田早苗氏贈

松屋筆記



廿三

乃ハナシ

Amimō

諸国水口巻の巻頭

本邦水口巻の巻頭
支那水口巻の巻頭

① 諸国水口

諸国水口巻の巻頭

支那水口巻の巻頭

杉屋筆記巻廿三

目録

① 新勅旨田

② 和福寺領田高海記

③ 丹波国牒を基田

④ 庄

⑤ 徳政并請人口八人

⑥ 山城記伊郡齋佐目

⑦ 及びそのりよ

⑧ 延暦寺の身号よりして并代換

Amimō

- ⑨ 嘉曆 并 嘉の年号 刻色
- ⑩ 磨粉木 味噌 垂袋 布巾 又
- ⑪ シヤリシ 梳 箒 箒 折 箒 箒
- ⑫ 墨 大工
- ⑬ 上 條
- ⑭ 三 階 市 庄
- ⑮ 佐 田 嘉 本 田 年 屋 田 又 刀 田
- ⑯ 岩 上 田 烏 野 田 箱 利 田 治 田
- ⑰ 公 田 并 郡 老 郷 長
- ⑱ 所 司 代 并 臈 物 屋

- ① 五の字を所後 借用
- ② 一周忌
- ③ 宿 齋
- ④ 榎 并 折 榎
- ⑤ 墨 大工 補 任 之 状
- ⑥ 字 并 西 面 十 合 一 升 料 所
- ⑦ 本 田 并 地 子
- ⑧ 所 并 庄 田
- ⑨ 燭 并 火 口 并 奉 之 所
- ⑩ 批 灯

- 廿五 名主百姓
- 廿六 五所宮并六所宮
- 廿七 圭田
- 廿八 後宇多院少子女并女の花押
- 廿九 得起清
- 卅 佐田

松屋筆記卷末

東都 高田與清文儒稿

一 新勅旨田

東寺延文元年二月八日勅書子當寺
 領大和國桑野殿庄攝津國垂水庄
 尾張國大成庄若狹國大良庄丹波
 國大山庄安藝國新勅旨田伊与國
 弓削島小之庄事知行不可有相違
 之由不知依信給者天氣如此仍執原
 如件。延文元年二月八日。左中右判。

澄上未予長者信正所房とあり

② 弘福寺領田多流記

弘福寺和銅二年十月廿一日の文書に、弘福寺川原田壹佰伍拾捌町肆段壹伯貳拾壹步、陸田肆拾玖町柒段叁步、大倭國唐瀬郡大豆村田貳拾町玖段貳拾壹步、山邊郡石上村田貳拾捌町肆段壹伯肆拾步、葛木下郡成相村田壹町貳拾段柒拾貳步、高貳步、高市郡方邊田叁町叁段拾

玖步、陸田壹拾壹町玖段壹伯貳步、内郡二見村陸田陸段、河内國若江郡田壹拾貳町陸段壹伯肆拾步、山背國久世郡田壹拾町貳伯叁拾捌步、陸田叁拾柒町壹段貳伯陸拾壹步、尾張國仲嶋郡田壹拾町肆段貳伯捌拾壹步、近江國依智郡田壹拾壹町壹段叁拾陸步、伊香郡田壹拾町貳段貳伯貳拾捌步、美濃

國多^口郡 郡田 柳町 味蜂 向 郡田 壹
拾貳町 澁波國 山田 郡田 貳拾町
和銅二年歲次己酉十月廿五日 丙七
位下守民部大錄兼行陸陽博士
山口伊美吉田主 徒三位行中納言
所儀朝臣名奈麻呂 正六位上守少
史勳十等佐伯造足嶋八 徒六位下
守大史佐伯直小訖 正八位下守大
錄船連大魚 徒三位行中納言河
倍朝臣名奈麻呂 徒三位行中納

元兼行神祇伯中臣朝臣臣爲品
正五位下守右中辨河倍朝臣使 徒五
位下守右中辨加賀毛朝臣使 正五位
上行治部少輔采女朝臣比良又 正五
位下氏部大輔佐伯名祢石湯上守

③ 丹波國 幟并並田

東寺延喜十五年十月廿八日文書子丹波
國幟 東寺傳法使家 多紀郡大
山庄田之狀 合一所台段七十二步 一条
三大山 尾南一大山 田東寺七段 二大山

田東至八段、十六池後田一段七十二步、
 藤依衛去九月十一日、藤狀令下都在
 地郡、換見其使所、即勅申狀云、彼
 庄地之内、畝帳注公田七坪三百八步、
 十九坪四段七十二步、之外、依負注寺
 田已了、無有他妨者、則東藤所
 載件坪、尤奇也、古也、案之以藤
 延喜十五年十月廿二日、守原初至、介尾張連
 權椽、椽多治、大目物、
 權少日山、

とあり、東清、孫子、大山、庄の内、の田を指
 乙大山田と云、や、小山田子、あり
 乙乙あり、池後、田、池後、あり、田、あり、乙

④庄

東寺山中二年、文書、あり

拜師庄

- | | | |
|------|------|-----|
| 真幡里 | 播釘里 | 踏田里 |
| 穴田里 | 社里 | 岩手里 |
| 鳥羽手里 | 湊久田里 | 三木里 |
| 飛鳥里 | 菟田里 | 水田里 |

盛衰記
 早五ノ廿三
 國に國司
 比在、領家
 併也、カレバ
 口字、カレバ
 字能、カレバ

按（附）應元年の文書ありて之を真
陸里と真瀨里（附）とあり（紀伊戸
山城目より戸の省字此文書に
依りて戸の字ありしと云ふ）

④ 徳政並諸人口入人

東寺蔵建武五年（戊寅）七月廿日諸
君（上）籍有（下）若天下一同徳政不可及
此沙汰者也云々賣主尼妙阿弥（附）諸
人佛成（附）諸人淨阿弥（附）諸人口入人阿
古大郎（附）諸と云々あり

⑥ 歳記伊郡南佐里

同文書に山城國紀伊郡南佐里云々同
寺蔵延慶の假名表状にきいのりあり
りてこの里とあり

⑦ 又別のものあり

同寺蔵延慶の假名表状にきいのりあり
りてこの里とあり

⑧ 延慶の年号よりみても（附）并代錢

同諸君は名んきや三ねん二月廿日と
あり延慶三年とあり又云々あり

同諸君は名んきや

少くも今の代^{カウカシ}金代銀代銭^{カウカシ}はともお前

⑨ 嘉暦^{カウカシ}并正嘉の年号^{カウカシ}の刻も

同寺蔵の假名^{カウカシ}活字^{カウカシ}かきやく四年^{カウカシ} 嘉暦正嘉の

⑩ 磨粉木味曾垂袋布巾^{カウカシ}ッスヤ 杭幾帳折安幾帳

建^{カウカシ}字^{カウカシ}の^{カウカシ}家^{カウカシ}、^{カウカシ}ノ^{カウカシ}文^{カウカシ}字^{カウカシ}

同寺蔵寛正二年の文書^{カウカシ}子^{カウカシ}磨粉木^{カウカシ}味^{カウカシ} 常垂袋^{カウカシ} 布巾^{カウカシ} 折安^{カウカシ} 幾帳^{カウカシ}

杭^{カウカシ}何帳^{カウカシ} 打表^{カウカシ}何帳^{カウカシ}とくも磨粉木^{カウカシ} 新撰^{カウカシ}大流^{カウカシ}波^{カウカシ}集^{カウカシ}もくも味^{カウカシ}曾垂袋^{カウカシ}今

の味曾垂袋^{カウカシ}こ布巾^{カウカシ}の今もつものとッス

ッスは簀^{カウカシ}の類^{カウカシ}れ^{カウカシ}ニヤリ^{カウカシ}の拍子^{カウカシ}

⑪ 墨堂大工

同寺蔵文明二年文書^{カウカシ}子^{カウカシ}墨堂大工^{カウカシ}とあり

梅子^{カウカシ}應仁^{カウカシ}記^{カウカシ}もいふもろも

⑫ 上條

同寺元徳元年文書^{カウカシ}子^{カウカシ}常陸国^{カウカシ}信太^{カウカシ}上

條内^{カウカシ}廿ヶ郷^{カウカシ}大^{カウカシ}お吉原^{カウカシ} 徳領^{カウカシ} 福田^{カウカシ}竹

畠^{カウカシ}荒川^{カウカシ} 糸道^{カウカシ}縮代^{カウカシ}の中^{カウカシ}二嘉暦^{カウカシ}

元二三^{カウカシ}以上^{カウカシ}四ヶ年^{カウカシ} 結解^{カウカシ}事^{カウカシ}云^{カウカシ}と嶋^{カウカシ}前^{カウカシ}

来、お鳥山弘戸、大浦、云々元徳元年
日地頭代官良圓判とあり、お子條
のり子郷あることあり

三踏所庄

同寺蔵、貞應より、後の文書に、三踏所
庄村上次第、立寄丸お、腰赤お
江上お、白垣お、塚お、上十法お
中十法お、庄中おありとあり
佐田荒木田、葦原田、久乃田、谷上田
鳥野田、箱利田、治田、公田、并、邸

老郷長

同寺蔵、延喜十七年、四月廿七日、券文に

九佐田貳段

二條四枚田、里廿二、荒木田、貳段、貳佰肆
拾四步

廿一葦原田、貳段、廿三久乃田、貳段

廿四谷上田、壹段、貳佰拾陸步

古社邊、里六、步

有分、獨條、一鳥野

三鳥野田、貳段、叁佰伍拾貳步

四鳥野田肆段 伍漆抗貳步
五鳥野田肆段 貳伍肆拾步
九雜利田參段
十雜利田

一地 狗町 漆段 貳伍肆拾步
高地 壹町 參段 貳伍肆拾步 栗

林臺町 山地肆町

四至 東○川 南限路
西限 郡老丹波直秀良地北限岸
高地 壹町 伍段 南限路
西至 東限治田 北限岸
西至 西限治田 在土布居里

島地肆段

四至 東限治田 南限島
西至 西限岸 北限岸 在土布居里一
丈田島

島地貳段

四至 東限治田 南限右
西至 西限岸 北限○前 在木前鄉
私部村

中間板倉臺字

板倉臺字

右得左第三條一坊 戶主故曲原 允正 六
位上安部 朝五 畠高 戶口同 姓忠 材

辭狀侮件水陸田故親三其尚所願
幸能田是也而今為免彼蘭周料
清償直延喜錢貳拾捌貫文賣陽
成院判官代敬位正六位上因查伊券
若吉宗既望請依式欲立券文者
鄉長依辭狀架提助所陳有實
仍執責買向人并保證者名繼立
券文如件以解

延喜十七年四月廿七日 鄉長丹波直永吉

賣人 薩孫 古倍志成

相賣從五位下惟吉右孫湊子
買人陽成院判官敬位正六位上

仲庄施入我各寺僧信遠大德讀經所

延長五年四月十日 喜日本主僧身寂 伴證人

敬位正六位下佐伯名祢氏雄

從六位下丹波 直

從六位上佐伯名祢氏直

摩訶氣神祝部大庇

郡判 依山寬子名 立券文注此

券文天曆六年五月廿五日

撥收 五位上物部首

撥收 従七位上許知

撥收 従七位上丹波直

擬大領 従七位上物部首真助

擬大領 従六位上丹波

擬大領 従六位上物部

擬大領 右近衛佐伯名群

擬大領 右近衛物部

按子右の考文子九佐田廿二景木田廿一景奈
田廿二ある九廿二廿一四數は田地圖の境界を

定て教目も之をわたり佐田は

弘福寺古文書にも之を景木田と物部

之を大景木田と云ふは善平奈田と不財帳

に之をあり及ふは乃田未考 右上田は

岩の上子ある田の二枚りや社邊邊国は古景

部と云ふは 能因寺清国古景部子以

みたり古景部 入るも之は

あり獨修い南條北條上條中條下條

ありの歎え是東南北上中下あり

と獨修といふは可考 鳥野田未考

の字と墨とありていふべし 雜利田の
地子田の歎なりて 栗林の栗の字も
とん料の林こころとまむぬあなるる
山地の林の字もや 郡老の郡司など
の類をきくは 郡延の米錢などありて
位階の字もくはるんたさてもえぬ郡
司の字の類なりて 治田の盤田の田
字にきくはるるも 同姓の字今も天の
字もくはる 南の字もくはるるも 美周料
の字の用もくはるるも 田の料もくはるるも 價

直延喜海の田畠の直に既の字に説の誤りや
郡長の郡司の字とけや 郡司も郡老
郡司を郡長とくはるるも 符の勅以
ハ考文をきくともふ相書いハ其子賣る人
なりて 郡判の郡司の字もくはるるも 可
考

西日評
右周記七行
同考蔵寛正年中申の引付
子所司代多賀豊後申云
屋内雜具老任寺家法不可
廿四日方評
定引付上り

こ満人既存出上志とらる也
①五の字を所後たゞと假用

同奇藏文書子

子^女少^房少^房ヲヌスム

寺^僧ソウノコト

東寺^中三^教エイ^也タウ^也ニト^也ト^也ハ^張リ^也文^也ヲ^也ツ^也カ^也ニ^也ツ

リ^也ハ^也エ^也ト^也モ^也五^也ヒ^也口^也ヲ^也ナ^也ク^也セ^也リ^也ニ^也テ^也ハ

セ^也イ^也ハ^也イ^也ナ^也ク^也ハ^也子^也ニ^也ヌ^也ウ^也ノ^也五^也坊^也ニ^也五^也坊^也ヨ^也リ

ツ^也カ^也イ^也シ^也タ^也テ^也ハ^也シ

エ^也ニ^也正^也ク^也ハ^也ニ^也五^也年^也正^也月^也廿^也日

同藏文書子

申^也ス^也ル^也日^也ハ^也二^也の^也よ^也ね^也の^也子^也

念^也ハ^也斗^也六^也科^也

右^也件^也の^也ね^也わ^也ら^也ら^也い^也あ^也き^也の^也よ^也き^也五^也

り^也の^也け^也ん^也と^也そ^也ろ^也え^也け^也た^也い^也け^也た^也い^也け^也た^也い^也

あ^也い^也も^也也^也一^也く^也ら^也る^也れ^也也^也中^也に^也な^也ん^也に^也い^也く^也

は^也く^也ら^也い^也の^也わ^也た^也り^也の^也た^也く^也の^也に^也い^也く^也

の^也た^也き^也も^也あ^也たり^也ら^也け^也ん^也ほ^也と^也つ^也た^也れ^也

ま^也い^也も^也也^也一^也く^也ら^也る^也れ^也也^也中^也に^也な^也ん^也に^也い^也く^也

ま^也い^也も^也也^也一^也く^也ら^也る^也れ^也也^也中^也に^也な^也ん^也に^也い^也く^也

延慶三年三月廿五日
 延慶三年三月廿五日
 延慶三年三月廿五日

存の文書子、所坊を止坊と云き、後口も
 止口と云き、延慶と延本と云き、後口も

(七) 一周忌

同歲延慶四年の文書子一周忌とあり
 延慶四年三月廿五日の文書子

(六) 宿願
 同歲寛政六年七月廿五日の文書子

藤原宿願堂書、又宿願堂書
 事云く又ね也あいのり、つまり布目代え
 誘文人教子

(九) 権并折権

同寺蔵寛政六年引付帳子権并折

命前延慶四年
 廿一日引付帳
 権并折
 宮重延慶
 下世延慶
 延慶四年三月廿五日
 延慶四年三月廿五日
 延慶四年三月廿五日

② 曼大工補任之状

東寺藏文明十七年七月引付帳子
補任

東寺曼一方大工職事

藤原久宗

右以人補任彼職宜相隨恒例臨時
之寺役者仍補任之状如件

寛正三年七月七日目代淨聰

別当權大僧都判

修理別当權大僧都判

③ 字并西面。十合一年。料所。

料所
連夜同多
日甚多
同寺藏文書子

奉寄進ハ播磨田地子

合臺殿者字西面田
植杉庄内

右田地者名徳毎年四斗十合并定可

有之寺納為大乗經料所奉副

奉進之状如件

康正三年 町西月廿日

指律師原家基

街上字西面田ハ坪の字也 張綱田ト云

と醍醐も者字しと圖としてつこ真
俗籠記のよけさばあるうり十名并
と、まると思ふあまの合布もあやけん、と
とる一——大一種か二種なとあの大
一併のさうや 料所といふ名も今地
名もあううやうとある也

世三 本田 并地子

同寺藏永保三年文書子伊勢国本
田庄多きを、觀應二年の文書子たつ
けのぢしとあり

伊勢国本田
地子あり
伊勢国本田
地子あり
伊勢国本田
地子あり

地子一類聚新宮一せう制度應仁せう
一葉あは二かた

世三 政所 并庄田

同寺藏吉文書子末寺の領大國庄
政所應徳二年六月六日の記云々
伊勢国大國庄有僧田順の解子
庄田四町七段あり、勅施入庄田也
應徳二年九月九日の解し指し今七庄
田氏あり、その庄田あり、政所は
庄司といふや

世四 願燭の心書文紙の口しお。孝ノツガシ。
挑灯。

末寺の領家
伊勢国本田
地子あり

同考藏傳永世九年の成方引付子
一ラシク 一ハシキラスカ
一カシラ 一カシ 一タマツ
一カウキ 一カシ 一カシ
一カウキ 一カシ 一カシ

然し

(註) 名主百姓

同考藏文書子

東方所領伊勢力国大國庄名主百

姓も證言也

中畧

盛衰記

右去四月七日 午計 俄 四方 打父 毛 利
電 奈 利 落 天 抽 勢 計 奈 留 久 世 物
降 来 天 麥 麻 以 下 皆 以 片 時 之 同
仁 念 換 止 早 又 々

康永四年卯月日

梅子普重院と名主ととらる地を
開墾しん所飲しん 井名をハハ井井紀六
主としりし 小井井名をハハ小井井紀六
の開くしりし 小井井名をハハ小井井紀六
小井井の名主としりし 小井井名をハハ小井井紀六

の世のおの名主の事とすえりし電
雷の流りや袖カサの袖の大カサとよん
氷カサの今とりのりく日本紀をひつる
と判たり

(廿六) 丑所宮 并六所宮

同寺蔵備中国杉見庄文永八年作
田目六子 丑所宮 三壺明神 坂
本徳男明神 丹守忠大山権現
旅嶋明神とありしのみ丑所宮いづく
所の所をもつてしといふれこれ所

宮心すくろりし所

(廿七) 丑田 品定案、齊志第廿八卷、論征まほし主田三征まほし

同寺蔵 弟和三年 民部有符丹は
目司上河内令一条三大山里一大山田
東ま出段とあり。三大山里一大山田の
三十八經田の名目の敷

(廿八) 後宇多院すみなも 并女の花押

同寺蔵 古文書子 例
ちを心の國々の 例
のちの 例

都取國史
別初神考
部三三田

宗國居年
後法五世
後と中の
子後法考
左室社考
右室の考考考

湯起請一様本法師湯起請換知
而籍奉北面三歌為納不以上七人悉一
同手燒了^一定^七法進^中けと^七監人^法
定^之者可^向我^之中^と御^付了^之入^夜監
人^務本^白状^一通^日可^代了^之品^人
白^状請^了了^之 才^之文^安二^年三^月廿
二^日の^り二
去^初廿^日金^蓮院^之覺^通律^師尸^屋
小^監入^之之^之隨^之換^新不^能修^仿者
持^越系^子其^志来^之者^不定^之果^度

法^下与^中者^持知^之要^然然^然然^然然^然
并^隱者^持着^力者^之以^上七^人湯^起請^了
三^日取^之
大^監人^之湯^起請^了系^七人^内越^希子^其
少^人持^着者^三人^逐電^仕了^之
按^之湯^起請^了日^年紀^子探^湯務^とあ
こと^とし^たり^とん

④ 佐田
佐田ハフケタと 記^一一^一 素^考藏^永享
六年^目安^子

六田以配受叶葎

六田以配受叶葎

①

叶葎

六田以配受叶葎

六田以配受叶葎

永享六年 目安 林三良 謹言上 中畧
さ家さうかのみや 豊秋もあられ
ひのふいひ田とさうくづちの内年受の
あこやー





